大会報告

第 30 回北大大会

2007 年 9 月 23 日 北海道札幌市

村越　真

北海道と言えばクマザサだ。第 30 回を迎えた北大大会は、今年もクマザサの茂る札幌近郊で開かれた。うまく組まれたコースのおかげで、気持ちよいレースが提供された。

■久しぶりの北海道

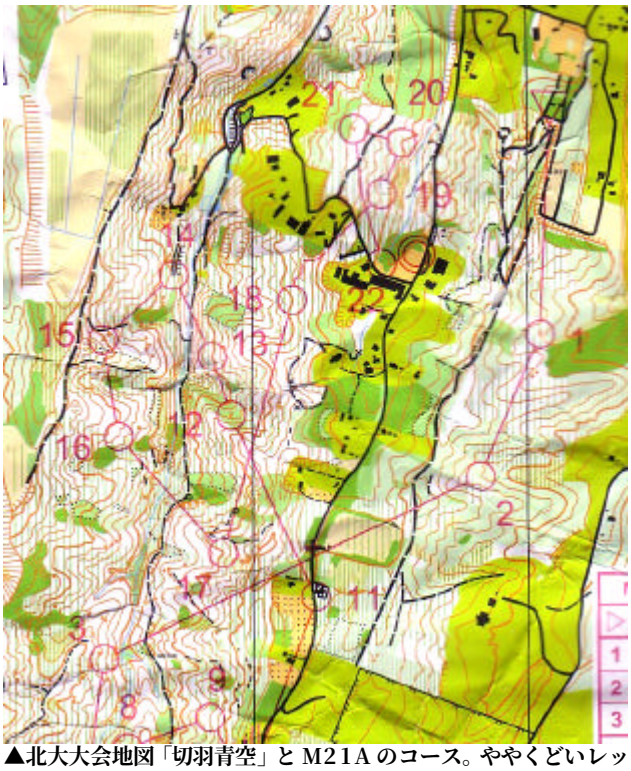
今から 20 年以上前のことになるだろう。当時オリエンティアにとって唯一の情報源だった「オリエンテーリングニュース」の社長さんの依頼で、北海道に出かけた。正確には覚えていないが、島松で開かれた北大と北海道協会が共催した二日間大会だったと思う。

その後、もう一度北海道にオリエンテーリングで出かける機会があったが、それが北大大会であったかどうか分からない。だから、今回の参加は 2 回目か、3 回目の参加ということになる。東京の名門大学クラブでさえ大会開催を見送ることがある時代に、周囲にオリエンティアの少ない地方で、部員 15 名といった状況の中で 30 回の大会開催を続けていること自体賞賛に値する。

会場は、市内南部の地下鉄真駒内駅からバスで 15 分ほどにある切羽渓谷である。その名のとおり、テレイン中央には急斜面に囲まれた渓谷が流れている。それを何度か横切り、北海道名物のクマザサをかき分けるコースが組まれていた。

ルスツでのスキー0 世界選手権の下準備のついでに参加した僕は、準備にも気が抜けていた。しかも出発当日は三保で静岡・愛知の合同練習会があり、その運営にも気を取られていた。会場についてみると、下に履くものを持っていない。仕方なく遊び用の半ズボンで走ることにした。近くにいた酒井佳子さんが、レガーズを貸してくれたが、膝小僧丸出しの初心者みたいなかっこでクマザサのヤブに挑んだ。

実際に走ってみると、うわさのクマザサは大したことはなかった。最近安曇野アドベンチャーレースなどに出て、背丈ほどのびっしり生えた笹尾根を、夜中に下ったりしているからだろう。



▲北大大会地図「切羽青空」と M21A のコース。ややくどいレッグがあるが、比較的うまく組まれている。ヤブの多いテレインをうまく使ったコース設定である。全日本でも十分通用したテレインだと思うと、やや残念。

7km 弱を約 73 分。優勝設定タイムに近いタイムで、プランナーに敬意を表した。緩急の地形表現が甘い点、やぶのハッチとベタの使い分けに統一感がない点などを除けば、地図は概ね及第点だ。コースも一部のコントロールを抜くともっと面白くなったと思う。少ない人数でこれだけの運営ができたことは評価できる。

ホテルに一度引き上げ、その後 18 時からの大会名物のコンパにも、勢いで参加した。M21A の表彰式だけはこのコンパで行なわれる。勝ったら飲めよということらしい。

今時珍しい学生コンパらしいコンパだった。一時は 100 人近い参加があったというこのコンパだが、今年は 20 名強の参加だった。コンパ参加者の中には北大 OB はもちろん、全国から訪れたファン（？）の顔も見える。こちらの方の伝統もぜひ続いてほしいものだ。

（村越 真）

▲（左）スキーO ではおなじみの酒井佳子さんと白鳥桂子さん。ゴール後地図を見ながら「反省」。（中央）手作り感覚の表彰式。内地の大会でもおなじみの顔が見える。（右）北大大会の名物の一つ。コンパ会場にて。この日はジンギスカンではなかったが、ラムと豚のしゃぶしゃぶを腹一杯楽しめた。